

へボン

大西晴樹  
(経済学部教授)

# ヘボン (Hepburn, James Curtis ) 1815-1911



ジェームズ・カーティス・ヘボン博士  
写真提供 横浜開港資料館

# 目次

## I ヘボンの生涯 (W.E.Griffis, *Hepburn of Japan*, 1913)

- ① 1815－40 医学などを学ぶ訓練時代
- ② 1840－48 宣教医として中国などにいた時代
- ③ 1848－59 ニューヨークでの開業医時代
- ④ 1859－92 日本に奉仕した人生後半の時代
- ⑤ 1893－1911 イーストオレンジで過ごした晩年時代

## II 施療活動

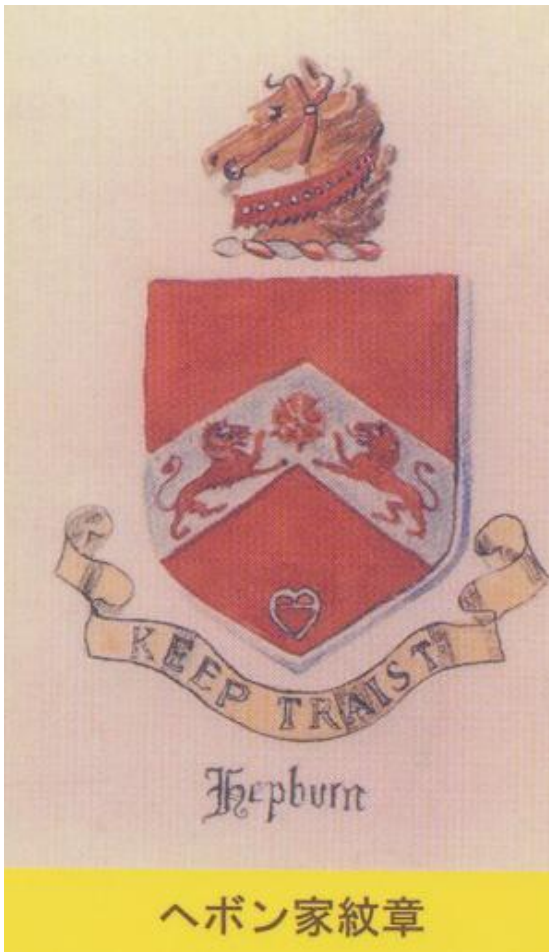
## III 辞典の編集・出版

## IV その他の活動

# I ヘボンの生涯

もし神がわたしを派遣し、わたしともにいますならば、それで満足です。

# 紋章



- スコットランド・ハディントン  
シア(エデンバラの東)のへ  
ボン家の紋章
- 紋章はジェントリ以上の家  
柄に対して付与され、紋章  
院に登録済
- この紋章のモットーは「信  
頼せよ」「堅く立て」
- 左右対称のライオンはよく  
ある構図 ハートとバックル  
は何を意味するか？

# スコッチ・アイリッシュ

- 祖父はアイルランド・ベルファスト生まれ
- プロテスタントのなかで、厳格で、戦闘的な長老派 (presbyterian)
- アイルランドは、カトリックの「聖人の島」
- キャサリン・ヘップバーンはコネチカット州に移住した家柄の流れ

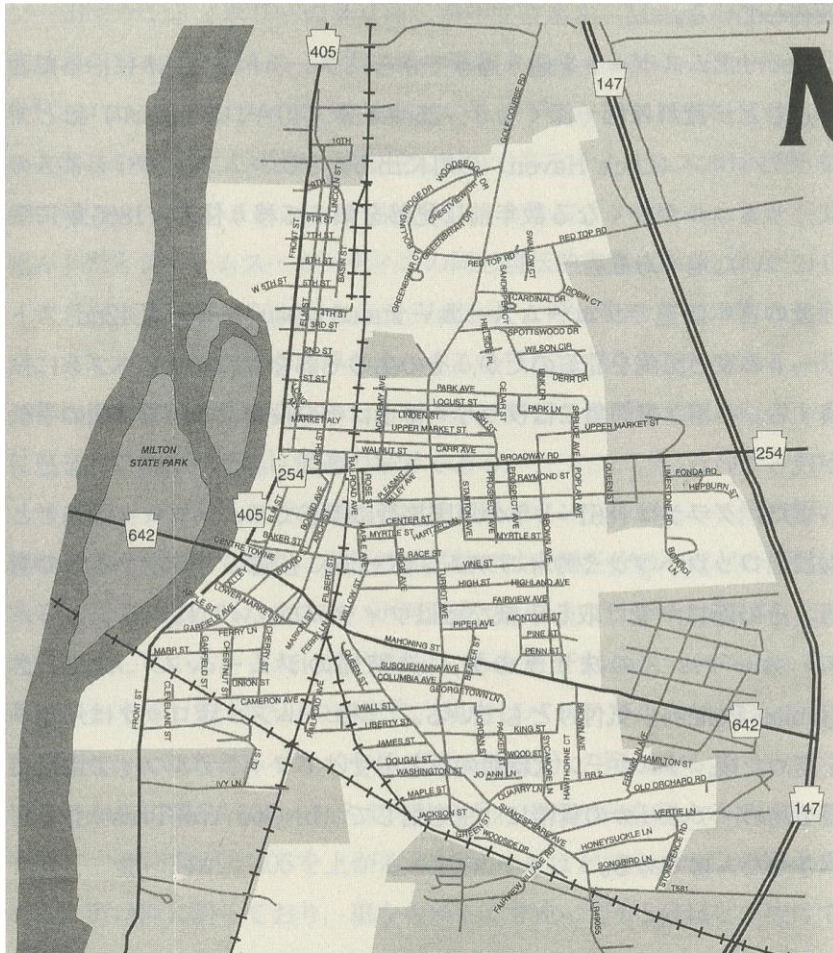


# ペンシルヴァニア州ミルトンへ



- 1773 曾祖父とその一団はベルファストからペンシルヴァニア州サスケハナの河畔に到着
- 一団はサスケハナ河を溯上、同州ノーザーバランドに移住
- ヘボンの故郷ミルトンはそこから12キロ北

# ミルトンの通りの名前に



# ミルトンの生家



- 1815年3月13日ペンシルヴァニア州ミルトン生れ
- 両親は「謙虚なキリスト教徒」父はプリンストン出身の法律家
- 母は特に外国伝道に関心をもち、『ミッシヨナリー・ヘラルド』を購読
- アメリカの海外伝道は1810年にアメリカンボードが創設、1812年に5組が東洋に向かう

# 学生時代

- 1831年へボンプリントン大学  
3年次入学 1832年秋卒業  
(BA)アジア・コレラのため(17歳)  
翌年同大学より(MA)の学位
- 化学実験に関心をもち、古典を  
軽視する風潮に対するアシュベル・  
グリーン新総長の言葉
- 家族は牧師？と思っていたが、  
本人は「生来無口で謙虚で控え  
目なため医学で身を立てたいと  
い思う」
- 1836年ペンシルヴァニア大学  
医科を卒業して医学博士(MD)の  
学位を取得(21歳)

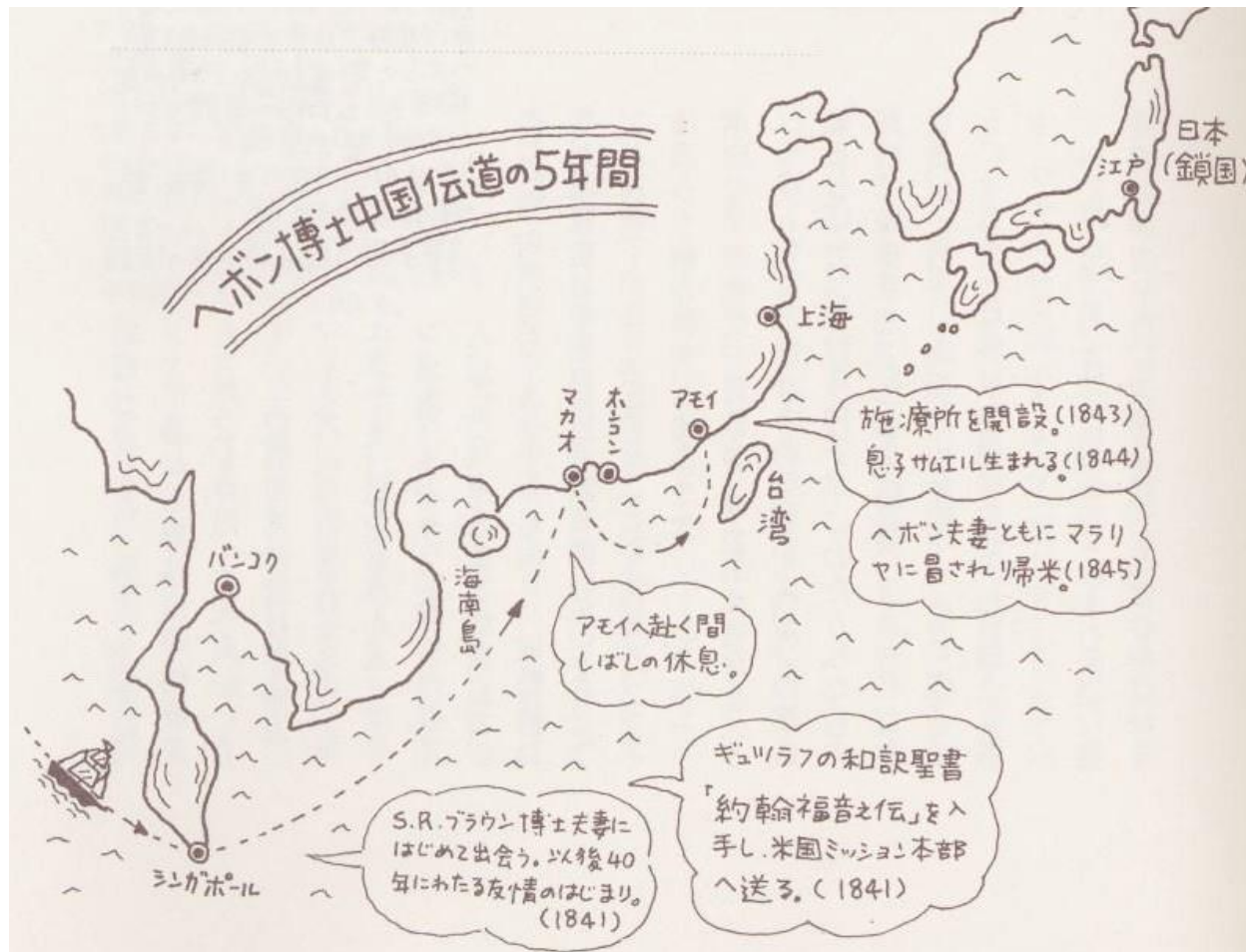


# クララとの結婚



- 1838年 ノリスタウンで開業(23歳)
- ノリスタウンで学校教師をしていたクララ・メリート嬢(コネチカット出身)と出会う(ただし、写真は晩年のもの)
- 「ミス・リートもわたしとともに海外に行きたいようでしたから、1840年10月27日」25歳で結婚

# 宣教医として中国などにいた時代



# 開国を迫る

- シンガポール: アメリカン・ボードの印刷所があり、ドイツ人の中国学者で英国政庁の通訳間ギュツラフは『約翰福音之伝』(1837)印刷
- 同年米国商船モリソン号、ギュツラフと音吉ら7名の日本人漂流民を乗せて江戸湾航行→蛮社の獄



# 東洋伝道の拠点マカオ

イギリス東インド会社の前で  
(2009.8)



R.モリソン肖像画(同社隣接  
の英国教会で)



# ニューヨーク開業医時代



- 1846年 ニューヨーク  
42丁目に開業(31歳)、  
以後13年間
- 当時ニューヨークでは  
アジア・コレラが流行
- 3つの広大な住宅や郊  
外の別荘ほど富裕に
- 生まれた子どもを3人  
までしょうこう熱と赤痢  
で失う

# 医院跡地：42丁目7番街リーガル映画館



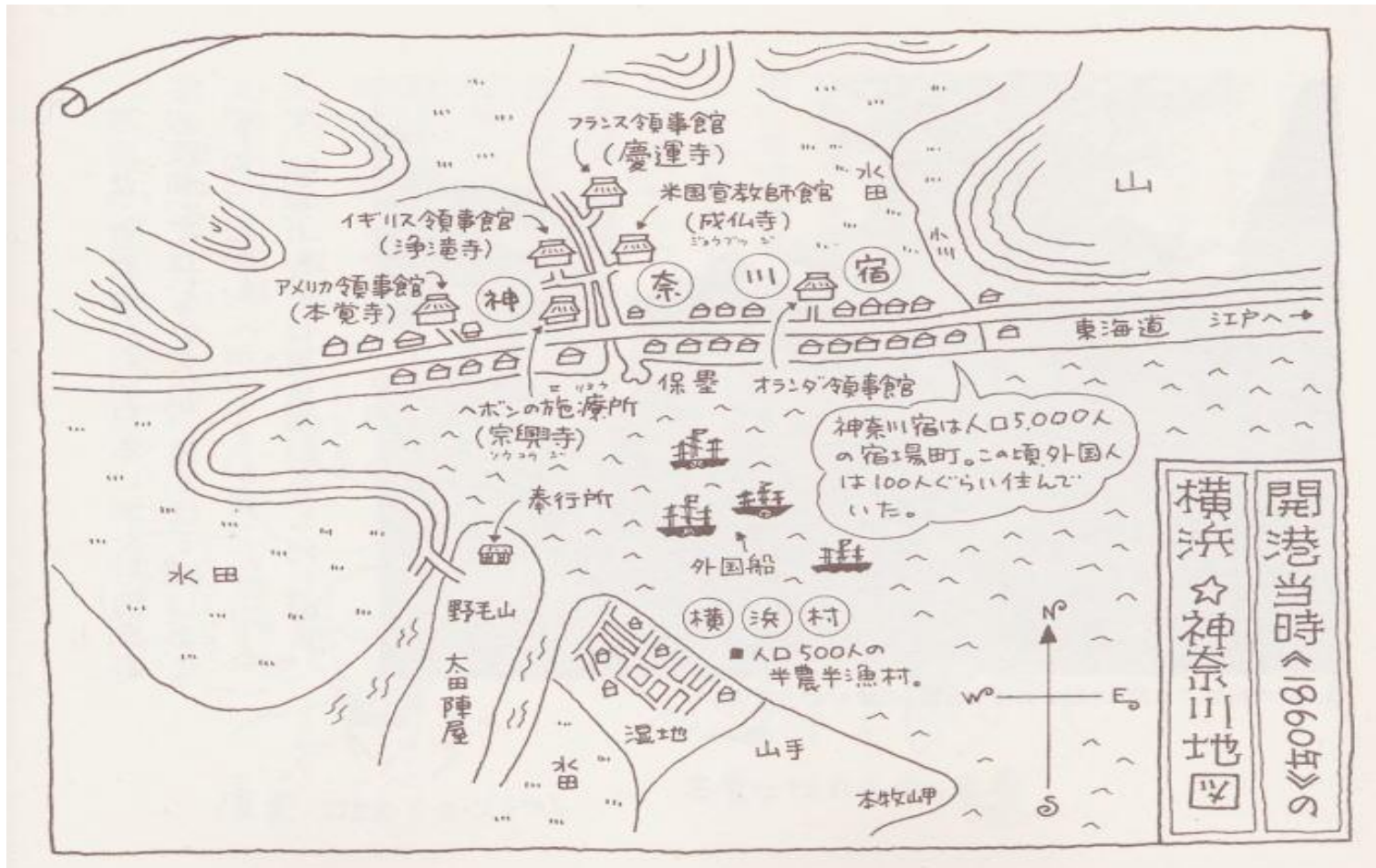
# 日本開国

- アメリカの経済発展、産業革命
- 1830－60年 アメリカ捕鯨業の最盛期
- 1853年3月 ペリー提督率いる米艦4隻浦賀沖に投錨 日米和親条約締結(下田函館)
- 1856年8月 アメリカ総領事ハリス通商条約交渉開始
- 1858年7月29日 日米修好通商条約 2港のほか、神奈川・長崎・新潟・兵庫を開港 居留地内における礼拝許可、踏み絵の廃止を明記

# ヘボン来日

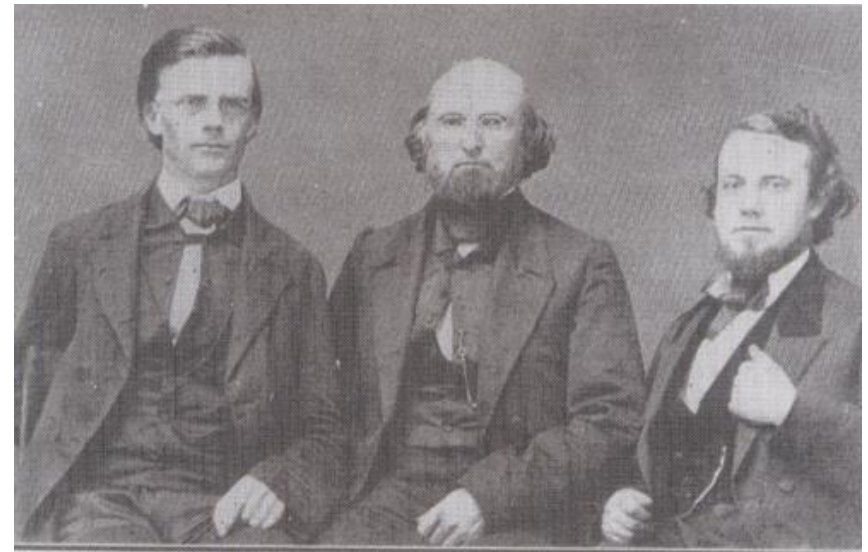
- ニューヨークにおける豪華な生活も盛んな病院の経営も、日本宣教の前には「糞土のように思う」
- 父と一人息子(14歳)と別れ、切支丹迫害の地へ、クララだけが賛成
- 1859年4月24日 サンチョ・パンサ号にて  
ニューヨークを出帆、上海経由で170日かけて  
10月18日神奈川上陸(44歳)

# 神奈川宿地図



# フルヴェッキ、ブラウン、シモンズ

- 1859年11月1日 S.R.ブラウン、D.シモンズ到着
- 同日 成仏寺で日曜礼拝
- ブラウンはシンガポール時代からの友人、聖書翻訳に貢献。シモンズは宣教医を辞め、福沢諭吉の発疹チフスを治し、慶応義塾構内で死亡
- G.フルベッキは長崎に到着。致遠館で大隈重信を教え、「お雇い外国人」として明治政府法律顧問、大学南校教頭



横浜開港直後に来日した左からフルベッキ、S.R.ブラウン、シモンズ

## Ⅱ 施療活動

へボンさんでも、草津の湯でも恋の  
病は治らやせぬ

# 成仏寺の生活

写真は成仏寺ではなく、本覚寺であることが最近判明した



- 1861年4月 施療活動を宗興寺で開始
- 1861年7月 クララ夫人は帰国 息子の心配 日本人に棍棒で肩を叩かれる ヘボン博士は何も書いていない
- ヘボンは成仏寺本堂で『和英語林集成』の編集
- 1862年高輪東禅寺英国公使館襲撃事件、生麦事件

# 「異人聞書」(1860)

亜米利加國の醫者へボンと申す者、日本の語葉少しく覚えたる趣にて日本人に逢えば片語交じり、色々と手真似して甚だ可笑しく見受け候、然るに戸部浦の漁師仁介、眼病を患い洲干島弁天に願懸け、毎日お百度を踏み候ところ、へボン、仁介と戸部浦で出遭い、眼病を癒しやるべしとて僅かに一点の薬水にて忽ち痛み止み申候。右の次第漁師共の間に傳はり、一方ならず評判に御座候。

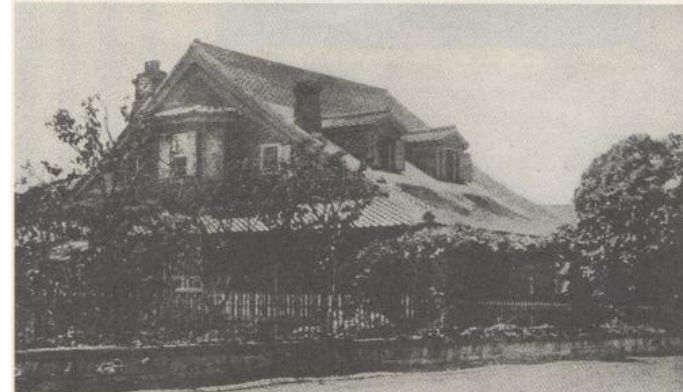
# 施療所(宗興寺)



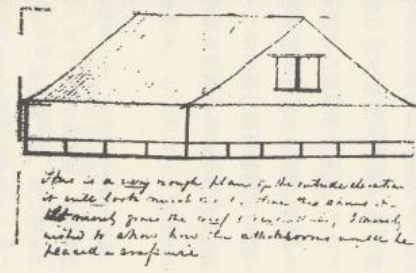
- 1861年春 開設
- 患者のほとんどは江戸から、毎日15名から20名ぐらい、ほぼ同数の医学生も預かる
- 6月には100名から150名に、今後は月、水、金に
- 9月幕府から閉鎖命令

# 横浜居留地39番

- 1862年 横浜居留地へ移転 施療活動を続ける
- 39番は居留地はずれのフランス山に続く、谷戸の現在の神奈川県合同庁舎のあたり
- 自分で建物を設計
- 1876年 ヘボンは施療所を閉ざす(61歳)

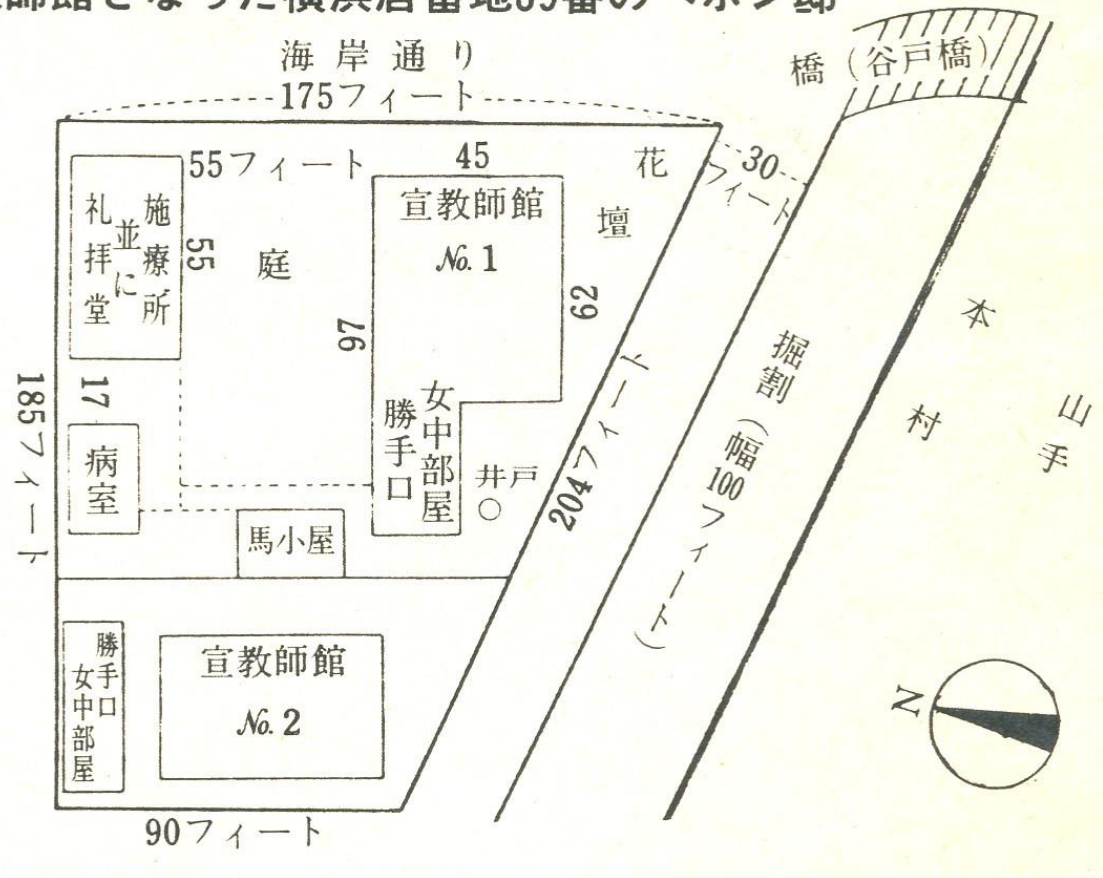


上・横浜谷戸橋とヘボン邸  
 中・ヘボン塾  
 下右・ヘボンが書いたヘボン邸のスケッチ



# 宣教師館・施療所

宣教師館となった横浜居留地39番のヘボン邸



# 田之助の手術



- 沢村田之助脱疽之右足切断手術でへボン是有名に
- 田之助は16歳の若さで立女形(たておやま)
- 田之助髷(まげ)、田之助襟、田之助下駄流行
- 舞台のセットから転落
- 佐藤泰然(順天堂)がへボンに執刀を依頼(皆川博子小説『花闇』)
- 錦絵は「フランス名医」3代広重(重政)筆、1867年、日本通運所蔵

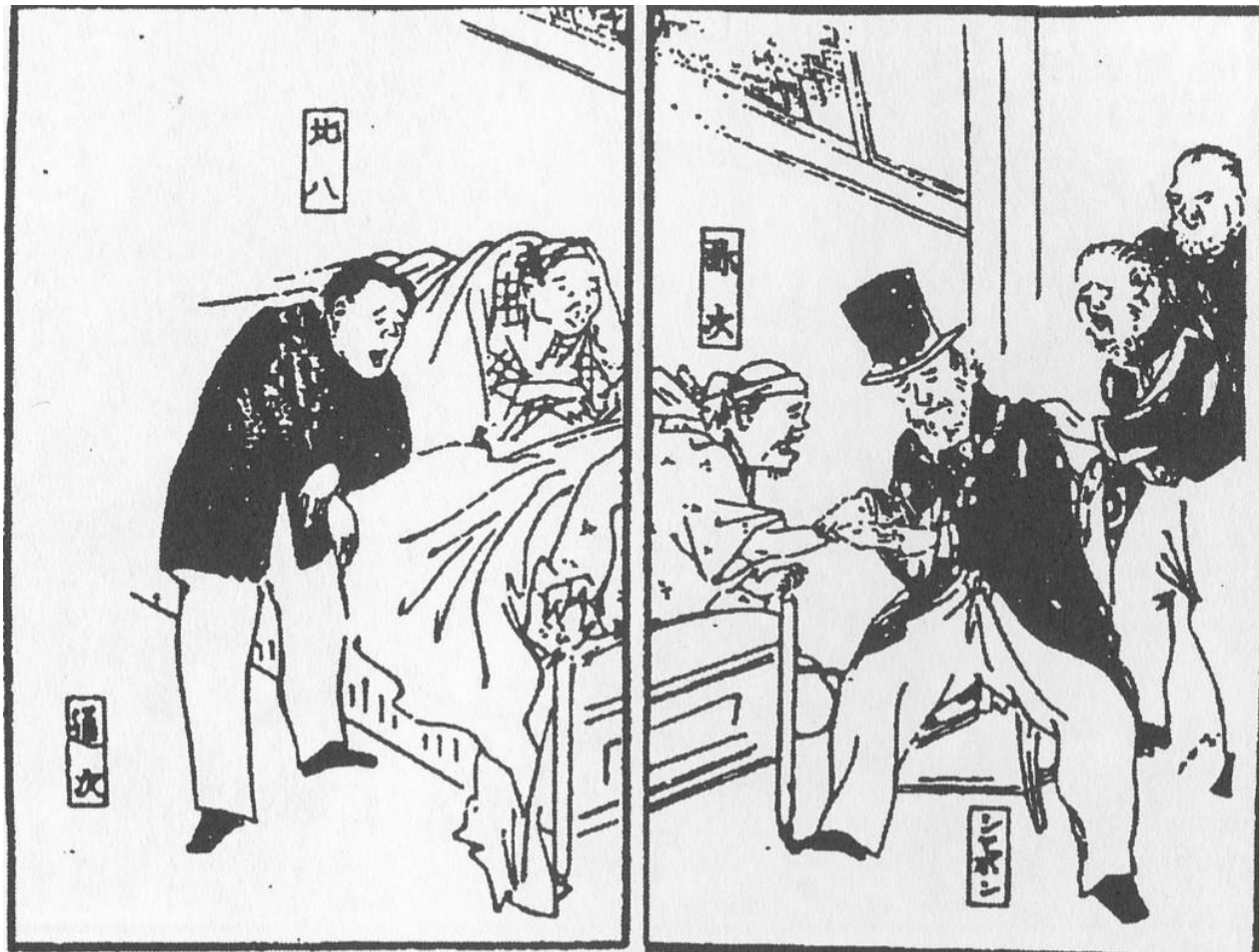
# 岡本起泉「沢村田之助曙草紙」(揚州周延筆)



# 錦絵 (武田科学振興財団所蔵)



# 仮名垣魯文「西洋道中膝栗毛」(一恵斎芳幾筆)



# 文久2年コレラ(コロリ)大流行

- 日本でコレラが流行して、無数の死者がでたとする記録の最初は、文政5(1822)年。流行の始まりは、長崎に入ったオランダ船による。
- 「数日前、神奈川宿で、ある大名の位の高い一人の家来が、コレラらしい病気にかかったので、往診に出かけました」(1862年9月1日付書簡)。
- 「6月17日から8月11日にいたる56日間にわたり、コレラ患者56万7千112人中江戸だけで7万3156人が死亡しております」(同上)。

# 岸田吟香

吉原の芸楼の主人(吟次)

1863 目を病んでヘボンの  
もとへ

- 辞典編集の際の助手
- ヴァン・リードと「横浜新報  
ほしも草」という新聞を刊行  
ヒコと海外新聞刊行
- 1880 前島密・中村正直・  
山尾庸三らと楽善会訓盲  
院(筑波大学付属盲学校)  
を創設



# 精錡水



- 吟香の他の事業
- 目薬「精錡水」の販売
- 江戸横浜間の定期船の購入
- 越後の臭水油(くそうず)の採掘
- 北海道から氷を輸送する氷室商会の設立

# 自然観察者へボン

- 来日前米国地理統計協会のメンバーに推挙される
- アネロイド晴雨計(気圧計)、雨量計をニューヨークから持ち込んで気候観測をし、毎日几帳面に気温、風向き等を記録



# 地震とTsunami

- 日本の家屋は「激しい地震が時々あるので、軽い材料以外の使用は禁じられている」「数回の地震については驚かされました。月に2度ぐらいあって、一度は非常におどろきました。古寺がギシギシと左右に揺れ、もし昼間だったらわたしどもは屋外に逃げたことでしょう」(1860年2月15日付書簡)。
- tsunamiは万国共通語、この日本語を世界に最初に紹介したヘボンが「陸地に勢いよく押し寄せ、水浸しにする大波」a large wave which rolles over and inundates the landと説明。ヘボンは、津波を見た訳ではないが、その怖さを、当時の日本人から聞いて、知っており、辞典の出版を通じて世界の人に知らしめた。(1854年の安政の東海・南海、翌年の江戸の大震災の際の津波や、その余震のことか?)

# Ⅲ 辞典の編集・出版

生きた日本語教師に典拠

# 日本語学習本

- 「日本語文法書」(イエズス会士ロドリゲスの大文典1604か小文典1620か?)と「約翰福音之伝」とは、長い航海中、非常に有益でありました。今では日本字を読むのに苦勞しません。かなり満足にできる程度に翻訳することもできるようになりました(1859年7月19日書簡)。
- ヘボンが初版の緒言で言及したのは、メドハーストの単語集『英和和英語彙』と、『日葡辞書』(1603年にイエズス会が長崎で作成、しかし、この辞書の仏語訳か?)だけであった。

# W.H.メドハースト『英和和英語彙』(1830)

	48	
Evening	Yo-i	ヨイ
Twilight	Pi kfoo-re	ピクフーレ
Dusk	Kfoo-re	クフーレ
Dark	Ya-mi	ヤミ
Night	Yor, Ya	ヨロヤ
Late at night	Yo-boo-ka	ヨブウカ
Midnight	Yo-nu-ka	ヨヌカ
All night long	Yo-mos'ga-ra	ヨモスガラ
All day long	Pi ne mos'	ピネモス
Day & night	A-ke kfoo-re	アケクフーレ
Yesterday	Ki no foo	キノフ
Do.	Sakf'zits'	サクツイツ
Day before do.	Is-takf'zits'	イツタクツイツ
To-morrow	A-kfoo'fi	アクフーフィ
Do.	M'ya-oo nits'	ミヤウニツ
Day after do.	A-satte	アサツテ
Do.	M'ya-oo go nits'	ミヤウゴニツ
New year's day	To-si no ha-zi-me	トシノハジメ
Birth day	Dan s'ya-oo nits'	ダンシヤウニツ
Lucky day	Ye-ki fi	エキフィ
Unlucky day	A-si-ki fi	アシキフィ
Every day	Pi go-to	ピゴト
Hour	To-ki, Si	トキシ
Moment	Ku-ta to-ki	クダトキ
Do.	Mata-takf'-ma	マタタクフマ

## 17 Religion.

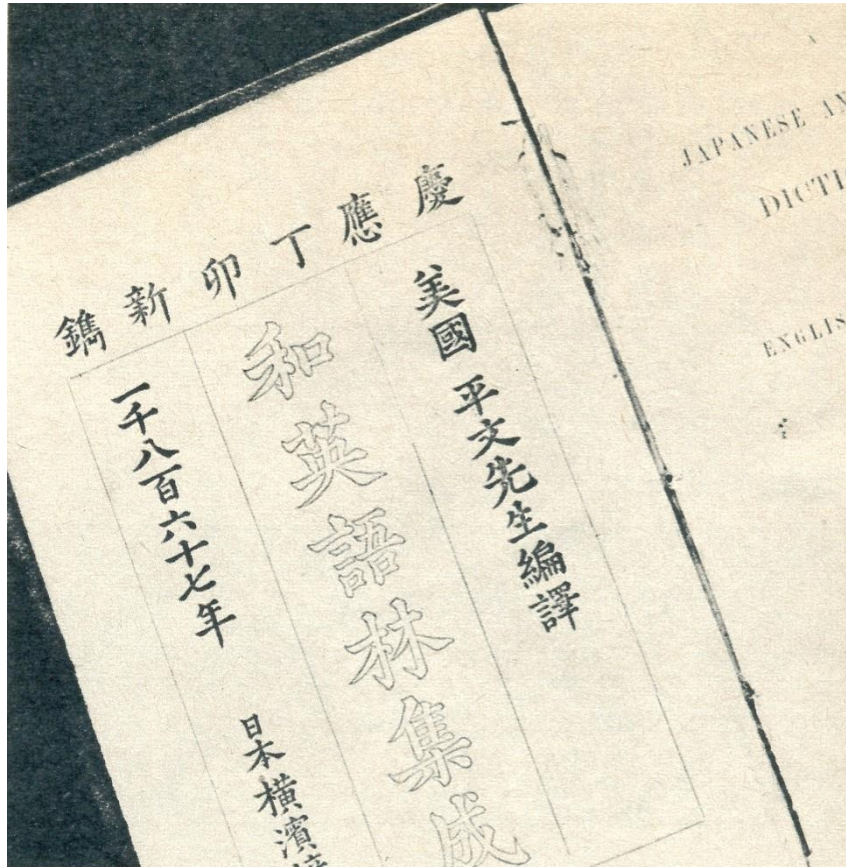
Heaven	Ten	テン	天
A god	Ka-mi	カミ	
Buddha	Po-to-ke, Boots'	ポトケ	佛
Amida	A-mi-da	アミダ	阿彌陀
Shikha-muna	Si-ya-ka moo-ni	シヤカモウニ	釋迦牟尼
Kwan-yin	Kf'wan on	クワンオン	觀音
Joo-lae	Ni-yo rai	ニヨライ	如來

	49	
Celestial gods	Amats'ka-mi	アマツカミ
Terrestrial do.	Kfoo-nits'ka-mi	クフーニツカミ
God of thunder	Ikads'si no ka-mi	イクツシノカミ
God of the wind	Ka-se no ka-mi	カセノカミ
God of fire	Pi no ka-mi	ピノカミ
Kitchen god	Ka-ma-do no ka-mi	カマドノカミ
River god	Ka-wa no ka-mi	カワノカミ
Gods of the soil	Dsi zin	ツチノカミ
Topical gods	To ko-oo zin	トコウジン
Demi-gods	Bo sats'	ボサツ
Dragon king	Ri-oo wa-oo	リウワウ
Ghost	Yu-oo rei	ユウレイ
Devil	O-ni	オニ
Soul	Kon bakf'	コンバク
Hell	Tsi kokf'	ツシコク
Religion	O-si-he	オシヘ
Worship	O-ga-me	オガメ
Sacrifice	Mats'ri	マツリ
Altar	Ya-si-ro	ヤシロ
Ancestorial do.	Sen-boo no ya-si-ro	センブウノヤシロ
Oratory	Ki ta-oo z'yo	キタウジヨ
Transgression	O-tsi-do	オツイド
Sin	Tsoo-mi	ツウミ

## 18. Abstract and miscellaneous words.

Abhorrence	O-o-ra-mi	オウラミ
Ability	Wa-za, No-oo	ワザ
Addition	So-yur mo-no	ソユルモノ
Affair	Koto	コト
Affection	On ai, Megf'mi	オンアイ
Age	To-si bai	トシバイ
Amity	Wa-bokf'	ワボク
Do.	Moots'-ma-zi	モウツマジ
Answer	Penta-oo	ペンタウ

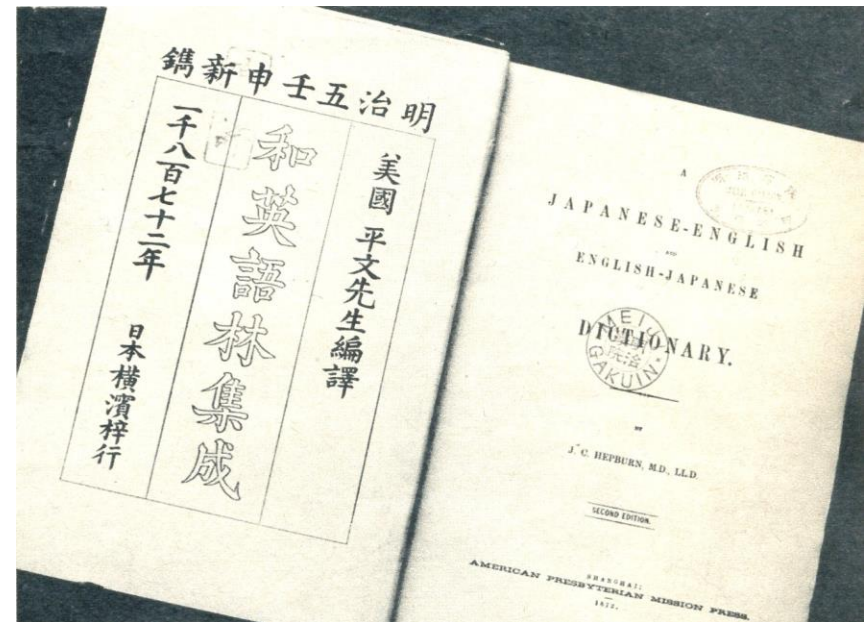
# 『和英語林集成』(1)



- 直接聞き取った日本語発音を忠実に記録している。ヘボンが初版の序でHis principal dependence, however, has been upon the living teacher.
- 松村明は『和英語林集成』の復刻の解説(1966北辰)で「本書は本質的には日本語辞典・国語辞典なのであり」と述べている。『新潮現代国語辞典』には、ヘボン辞書の語彙や用例が多く掲載され、小学館『日本国語大辞典』には5825語掲載されている。

# 『和英語林集成』(2)

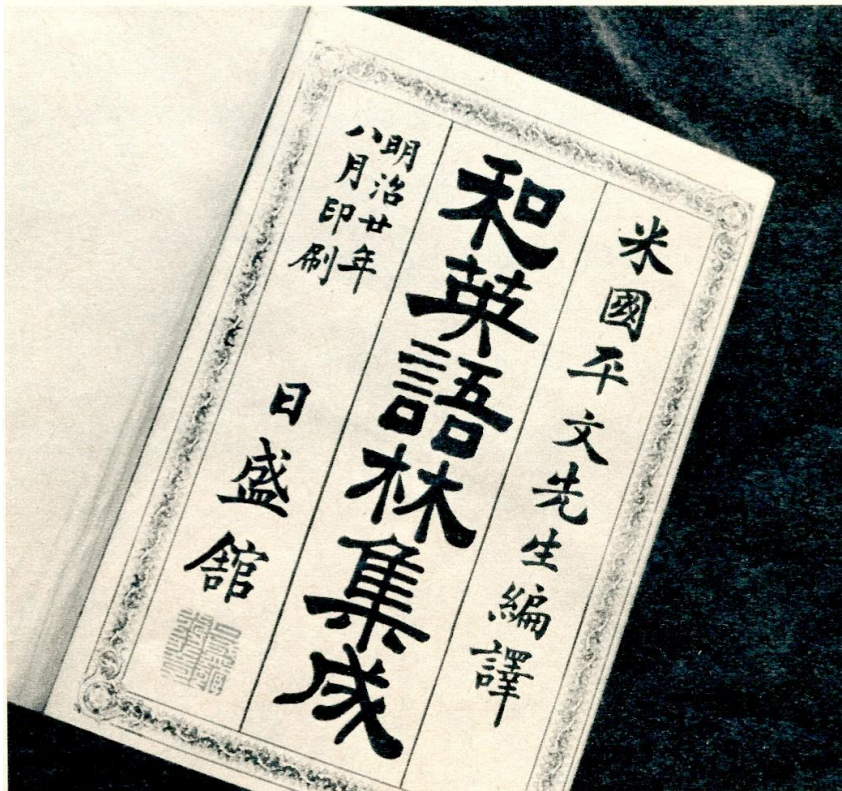
- 資金の裏付けはウォルシュ・ホール商会(神戸では製紙業に従事、その工場を岩崎弥太郎へ譲渡)
- 初版の英和の部は、ヘボンが校正を待つ時間に上海で書き上げた
- ヘボン辞書を超える日本人よる辞典は1896(明治29)年に三省堂から出たプリンクラー、南条、岩崎編『和英大事典』までない



# 印刷は美華書院(上海)で

- 岸田吟香は美華書院にはまだない日本文字の活字のための版下を書くことを手伝う。硬質の黄楊という木の小さな面にイロハニと墨字で書くのである。墨文字を彫刻して字母をつくっていく。1本の字母を鑄造機にはめて、どろどろに融けた鉛を、深く彫った凹面に流し込む。
- ウィリアム・ガンブルは、アメリカ長老教会宣教団印刷所の中国にある工場を管理する宣教師として、大小7種の明朝体の号数活字を作字。帰米する途中、フルヴェッキの手引きで、本木昌造をはじめ活版伝習所生に母型の製作、活字の鑄造、活版作業を指導した。美華書院の11ポイント活字は、日本で再鑄造されるとき、鯨尺に換算され5号活字(10.5ポイント)となった。

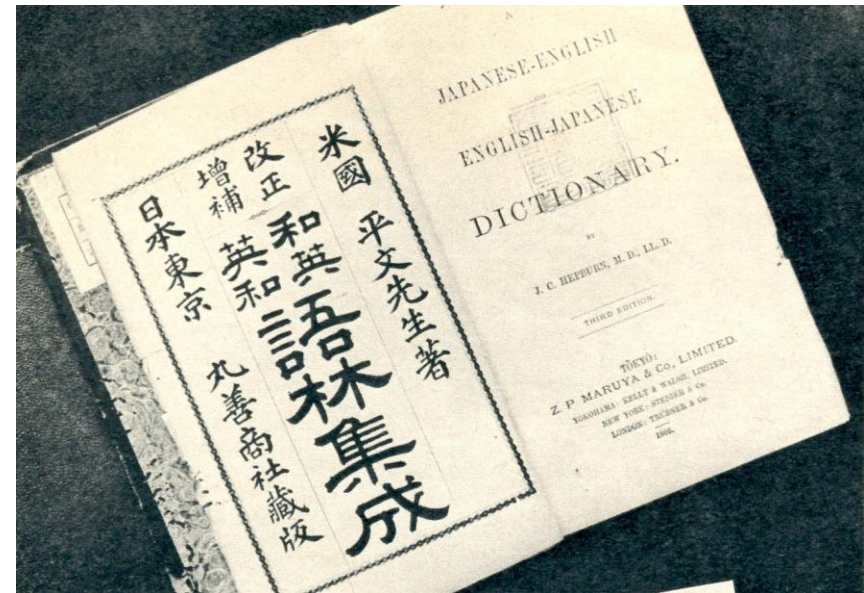
# 翻刻版（海賊版）の横行



- 1867年4月アメリカ公使館書記 Portmanは外国奉行宛に海賊版の差し止を求め、老中は通達を出す。これは日本初の版權を求めての外国人による願い出。
- 1872(明治5)年再版の出版にあたりヘボン、文部省のモルレーに相談、当時はまだ著作権や特許権など知的財産権に対する理解はなく、エンサイクロペディア・ブリタニカの記述によって理解を得たと是清が書いている。

# 第3版は丸善から

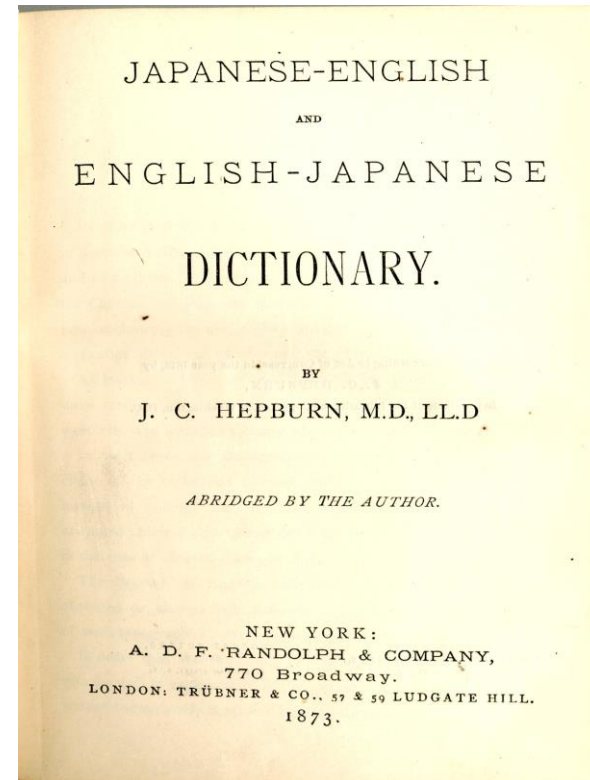
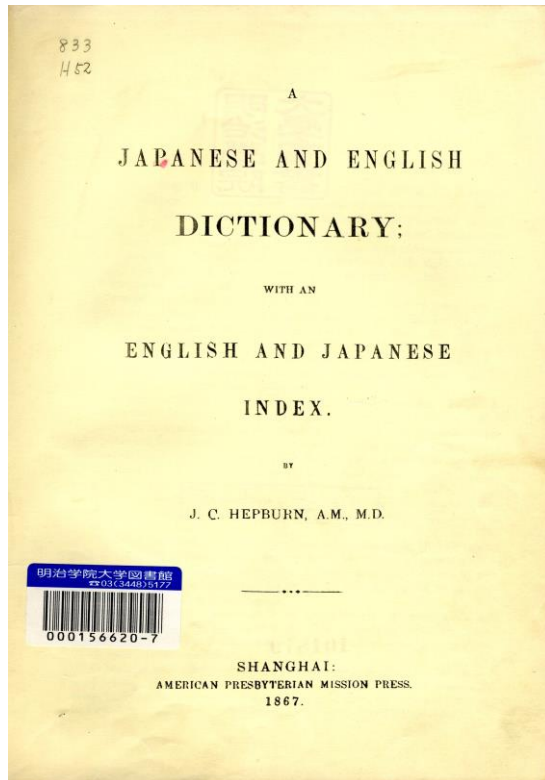
- 第3版は、外国人には著作権の保護はなかったもので、1886年に丸善への譲渡を急いだ。早矢仕有的は施療所で医学を学んだときからヘボンを知る。注文が18000部あった。
- 版権の譲渡がいくらだったか不明だが、当時の2000ドル1万円相当を明治学院に寄付。



# 世界で利用されるヘボン辞書

出版資金のために上海版の  
紙型をロンドンの版元に売却

ロンドンの版元がニューヨーク  
の書店を通じて出版

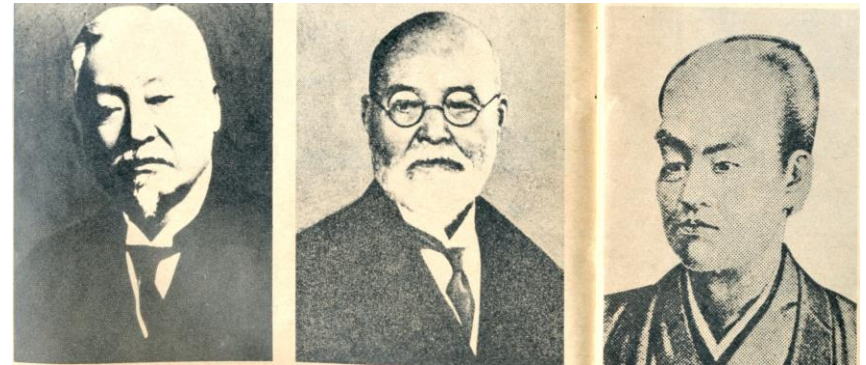


## IV その他の活動

わたしどもの戦いは終わったのです

# 教育活動

- 1862(文久2)年 幕府の身分の高い学生9名(村田蔵六、沼間守一) 加減乗除、2次方程式、3角法
- 運上所(横浜アカデミー)大鳥圭介、星亨
- ヘボン塾 「クララ夫人の学校」泰然から林董を預かる高橋是清、益田孝、三宅秀
- 1870(明治3)年 ヘボン塾女子部はフェリスセミナリーへ



# 聖書翻訳(1)

- 1872(明治5)年 馬可(マルコ)伝、約翰(ヨハネ)伝等をブラウンとともに日本語訳
- 1874年 諸派を結集して「聖書翻訳委員会」
- 1879(明治12)年:新約聖書翻訳完成・出版「太初にことばあり、ことばは神とともにあり」(約翰)←「よくもかかる雅訓の文をなししかと驚嘆せしめらる」(上田敏の評価)
- 1887(明治20)年 旧約聖書を翻訳
- 成仏寺の庫裡にすんでいたJ・ゴープル(バプテスト派・水兵)はより庶民的な言葉で約翰伝を翻訳

# 聖書翻訳(2)



# 明治学院と指路教会



# 帰国



- 1892(明治25)年33年間の滞日生活を終え帰国(77歳)
- N.J.イーストオレンジに終の棲家(写真)を建て隠遁
- 1906(明治39)年 クララ夫人88歳で永眠
- 1911(明治44)年 9月21日 午前5時 ヘボン96歳で永眠 同日早朝(日本時間)ヘボン館焼失

# 墓参 (2009. 12)



# 結論

へボンよ永遠なれ

# Do for Others

- もしもアメリカが日米両国の親善に貢献したと主張するとしても、それをペリーやハリスによる条約締結だとすべきではない。(中略)実際、日本人の知識の門戸を開き、遠方より来れる者に習得を容易ならしめたヘボンの功績こそ第一とすべきであろう(J.R.ブラック「ヤング・ジャパン」より)。

